

Labo News

らぼニュース

発行所 公益社団法人愛知県臨床検査技師会
 住所 名古屋市中村区名駅5-16-17
 花車ビル南館 〒450-0002
 電話 052-581-1013
 F A X 052-586-5680
 ホームページ <http://www.aichi-amt.or.jp/>
 Eメール aamt@aichi-amt.or.jp
 取引銀行 三菱東京UFJ銀行 柳橋支店
 普通口座 731-677
 発行人 梶山 広美
 編集人 山田 真

No.422 目次

- ◆平成28年度
愛知県臨床検査精度管理調査報告会
および特別講演会に参加して…………… (2)
- ◆地区だより…………… (3)
- ◆平成29年度日臨技中部圏支部
医学検査学会 (第56回) 実務委員の募集… (4)
- ◆基礎講座…………… (5)
- ◆AICCLS 愛知県臨床検査標準化協議会
通信 (第48回) …………… (6)

平成29年度定時総会の開催にあたって

庶務部長 夏目 久美子

来たる平成29年6月25日(日)午前10時より、TKPガーデンシティ PREMIUM名駅桜通口ホール4Dにおきまして、公益社団法人愛知県臨床検査技師会平成29年度定時総会を開催いたします。会場は名古屋駅より徒歩5分ほどの場所で、昨年とは異なりますのでお気を付けください。本総会では、平成28年度事業・決算報告(案)、名誉会員の推薦について審議いただき、平成29年度の事業計画・予算を報告させていただきます。

平成28年度は、精度の高い臨床検査を提供するための専門的知識・技能の普及や人材の育成を行う事業として、新人サポート研修会やスキルアップ研修会を開催するとともに、第17回愛知県医学検査学会を尾張西地区の担当で堀出剛学会長のもと、盛大に開催されました。また、学術部研究班による研究会・講演会・基礎講座や、地区活動での研修会・勉強会を行い、臨床検査技師の資質向上に寄与してまいりました。精度管理事業としては、愛知県医師会、愛知県病院協会、愛知県臨床検査標準協議会との共催でサーベイを実施し、その後結果検討会と報告会を開催して精度向上の支援を行いました。組織部門においては、会員並びに賛助会員向け事業として海岸清掃ボランティア活動、祝賀会・懇親会、スポーツ大会、New Year パーティーを開催し、親交を深めることができましたと思います。県民の皆様に向けては、健康増進と衛生思想に関する普及啓発事業として、世界禁煙デー街頭啓発キャンペーンや、HIV抗体検査ボランティア、全国「検査と健康展」への参加を行いました。広報部門においては、会報らぼニュース、会誌らぼの発行とともに、ホームページを充実させ会員・一般の皆様へ適切な情報提供を行ってまいりました。これらの事業は、例年通り滞りなく遂行することができました。これもひとえに会員の皆様のご理解とご支援の賜物と感謝申し上げます。

当会は平成29年に法人設立30周年を迎えます。昨年は法人設立記念式典を開催し、今年度はこの法人設立を祝う記念パーティーを7月8日(土)に開催いたします。また日臨技中部圏支部医学検査学会(第56回)は担当技師会として準備を進めているところであり、9月30日(土)10月1日(日)に名古屋国際会議場にて開催いたします。そして今年度の全国「検査と健康展」は、中央会場として11月11日(土)「臨床検査の日」に開催いたします。是非とも多数の皆様のご参加をお願いいたします。

愛臨技事業はますます盛んになってきており、さらなる会員の皆様への当会へのご協力とご参加をお願いする次第です。平成29年度定時総会は日曜日の午前中に開催いたします。総会終了後は休日を堪能していただけますと幸いです。会員の皆様一人ひとりに適切な支援ができるよう、皆様のご意見をお待ちしております。ご多忙中恐縮ではございますが、定時総会へご出席賜りますようお願い申し上げます。

平成28年度愛知県臨床検査精度管理調査報告会 および特別講演会に参加して

安城更生病院 杉山 大輔（精度管理事業部 事務局員）

平成29年3月11日（土）名古屋第一赤十字病院の内ヶ島講堂にて、平成28年度愛知県臨床検査精度管理調査報告会および特別講演会が開催されました。

8月末に実施された精度管理調査には過去最多となる135施設からの申込があり、報告会には131名（会員121名、賛助会員10名）の参加がありました。

報告会では事務局から、精度管理調査の概要・アンケート集計報告を行い、続いて臨床化学検査・免疫血清検査・血液検査・一般検査・生理検査・輸血検査・微生物検査・細胞検査・病理検査の9部門から調査内容と結果についてポイントを絞った報告がありました。今年度は事業部員・事務局員の大半が未経験者だったこともあり、参加施設の皆様にはご迷惑をおかけしてしまった部分もありました。

精度管理調査の際に寄せられたご意見、ご要望は真摯に受け止め、今後活かしていきたいと思っております。

特別講演では愛臨技・梶山会長から、“日臨技新生涯教育制度支援事業・eラーニング”を中心に講演いただきました。現在日臨技で導入が検討されているインターネットブラウザ上の学習システムであるバリューレゾリューションについて動画を交えて分かりやすく紹介していただきました。このシステムを上手に活用することで効率的に知識・技術のスキルアップが可能となり、長期的な生涯教育設計においても非常に有効な手段となり得ると感じました。また、平成29年度の日臨技事業案についても説明していただき、我々臨床検査技師を取り巻く法的環境と日臨技の動向について理解を深めることができました。

今回、事務局員として精度管理調査に携わり外部からは分からない多くの苦労があることを知りました。この経験を糧に今年度も頑張りたいと思っております。



『高次脳機能障害』という言葉を知っていますか？

社会福祉法人 名古屋市総合リハビリテーションセンター附属病院 白滝 龍昭

こんにちは、みなさま。私は上記リハビリ病院で働いている50すぎの「検査技師おっさん」です。生理検査を主に担当してきました。当院はリハビリ病院ですから、脳卒中や事故による頭部外傷等の病気が怪我の急性期を脱した患者さんも多くおみえになります。検査準備中や検査後に患者さんとお話してしばしば思うことは、大病しても最初の病院を退院する期間って早いのだなあ～ということ。現在の医療・介護・福祉制度やそれらの質・仕組み、また病院の特性や役割分担が、はっきりしているからなのでしょうかね。さて、そんな患者さん方が、意識もはっきりしてきた時期に当院にいらっしゃるわけですから、現実との直面を考える・考え出す時期になってくるわけです。

「この先のこと…どうしたらいいのだろう…」

ご本人やご家族の不安は、なってみないと、直面しないとわからないのですが。ただただ、寄り添う気持ちをしっかりもって、検査に望む日々です。私が入職した20数年前となんだか違うなあ～と最近違和感を持つのは、脳卒中患者さんの低年齢化。きちっと統計をとらなければ、こういう言い方はよくないと思うのですが最近では、40歳代脳卒中入院患者さんが、ざらになってきています。なんだか高齢者と2極化してきているようにも思えます。一方、頭部外傷の患者さんでは、その要因として事故が中心ですので、交通事故もあれば転落事故、水難事故もあります。よって年齢層は、10歳代の若者から高齢者までと幅広いです。一口に頭部外傷と申しましても、脳挫傷のように頭骨破壊による脳実質の損傷から、頭部打撲により脳実質が頭蓋内で頭骨に強烈に押しつけられて神経細胞の軸索損傷をきたす状況等、多種多様です。そして、例えば昔は、頭部の手術により存命したことでその後のフォローはほぼ終わりでしたが、実はそういった患者さまが、①注意障害、②記憶障害、③遂行機能障害、④社会的行動障害を主訴として、社会や家庭に戻ったときにうまく適応できないことがわかってきました。そこで当院は、平成3年から「頭部外傷研究会」をたちあげ、平成10年には科研や平成15年には国のモデル事業としての頭部外傷後遺症患者さんについて、国や県や

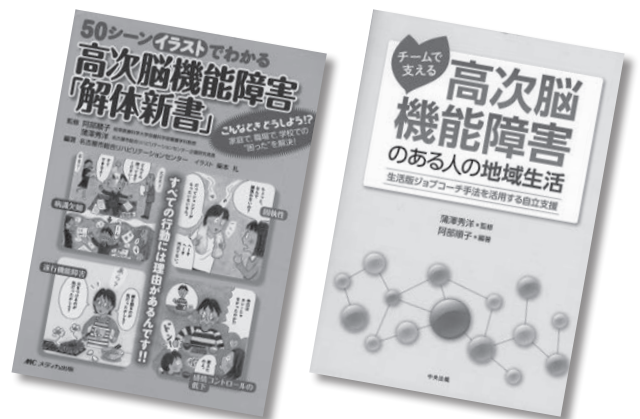
市を巻き込んで研究してきました。当検査科も『高次脳機能障害』患者さんの脳波周波数解析や光トポグラ



フィー検査の研究に携り、それらのお手伝いできたことは、検査技師にとりましても有意義な時間となりました。また国立リハビリテーションセンター等の頭部外傷研究の拠点機関が集まり、診断基準や訓練プログラムの提言を行ってきました。そういった地道な成果が実り、『高次脳機能障害』が、公に「障害」として認定され、障害者総合支援法のもとで福祉的なサービスが受けられるようになり、今年で10年目となっています。

さて最近、「説明できる検査技師」というスローガンをたびたび耳にします。説明するには、もちろん検査の内容・知識がないとできませんが、その前に相手がどのような資質を持っているかを知っておかないと、伝わるものも伝わらないこともありますね。前記に、『高次脳機能障害』の特徴について、超簡潔に①～④を挙げました。今の時代、ちょっと検索すれば、すぐにおおまかな意味は出てきます。また、ご興味があれば、下記の書籍をご参考ください。「解体新書」(2011年12月発行)の方は、一般向けです。「チームで支える」(2017年1月発行)の方は、専門家(相談支援事業所・居宅介護事業所等)向けです。

以上、地区便りとしてお伝えいたしました。



平成29年度 日臨技中部圏支部医学検査学会 (第56回) 実務委員の募集

学会実行委員長 所 嘉朗

本誌No.421 4月号でお知らせしましたとおり、平成29年度日臨技中部圏支部医学検査学会(第56回)を平成29年9月30日(土)から10月1日(日)に名古屋国際会議場白鳥ホールと2号館で開催いたします。

学会実行委員会では開催に向けて準備を進めているところですが、学会前日および当日に各実務を担当していただく委員を募集いたします。実務内容は各会場の責任者、(副責任者)、照明、進行、スライド、受付、案内・接待、クローク、座長・演者受付、(スライドセンター、会計、懇親会、各企画担当)等で、半日ぐらいの単位で担当いただく予定です。お手伝いいただける会員は施設連絡責任者に参加希望の日程等を申請ください。施設連絡責任者は取りまとめていただき、地区理事に提出してください。担当および日程等は事務局で調整後お知らせいたします。

申し込み締切日は平成29年5月31日(水)とさせていただきます。

学会内容については学会ホームページ <http://56chubu-kensa.net/>をご覧ください。

問い合わせ先：愛知県がんセンター中央病院 臨床検査部

実行委員長 所 嘉朗

電話：052-762-6111 (PHS 6120)

F A X：052-757-4810

E-Mail：aipatho@hotmail.com

平成29年度 日臨技中部圏支部
医学検査学会 56th

未来を担う医療人として
～ As medical professionals responsible for the future ～
愛知からの変革 チーム医療、先駆的医療への取り組み

開催日：平成29年9月30日(土)・10月1日(日)

URL：<http://56chubu-kensa.net/>

会場：名古屋国際会議場 (白鳥ホール・2号館)

基礎講座

輸血検査研究班

専門教科：20点

日時：【基本コース】平成29年7月29日(土)
14：00～17：30

【応用コース】平成29年7月30日(日)
9：00～16：30

場所：名古屋市立大学医学部 基礎研究棟
4階 微生物実習室

テーマ：実技講習会
「輸血検査のテクニックを学び、現場で生かそう！！」

講師：輸血検査研究班班員

内容：【基本コース】
基本操作・血液型検査・交差適合試験（生理食塩液法）
【応用コース】
血液型検査・不規則抗体スクリーニング・不規則抗体同定検査・抗体解離試験・症例カンファランス

定員：【基本コース】約30名
【応用コース】約45名

参加費：【基本コース】2,000円
【応用コース】7,000円

対象者：【基本コース】
輸血検査に携わって間もない方・基本操作の再確認（認定輸血検査技師資格試験の受験準備をされる方）・日当直のみ輸血検査を実施している方
【応用コース】
認定輸血検査技師資格試験の受験を近々予定されている方・輸血検査のスキル向上を考えられている方・施設で輸血検査を指導する立場の方

申込方法：下記申込事項について、E-mailでお申し込み下さい。申し込み後1週間以内に受領メールが届かなかった際は連絡先までお問合わせ下さい。

携帯メールからの応募はできません。

アドレス：2017aichiyuketu@gmail.com

申込事項：①コース名 ②会員番号 ③氏名
④かな氏名 ⑤施設名 ⑥所属
⑦施設住所 ⑧TEL（内線）
⑨輸血検査経験年数

⑩輸血業務頻度（例、毎日・週3日程度・日当直のみ等）

連絡先：日進おりど病院 臨床検査科
小木曾 美紀

TEL 0561-73-7771（内157）

申込開始：平成29年5月1日(月)

申込期限：平成29年6月30日(金)

注意事項：1メールにつき1名の申し込みとし、複数名の申し込みは受付できませんのでご注意ください。定員になり次第締め切ります。締め切りの状況はHPにてお知らせします。参加費の納入方法については受領メールにてお知らせします。応用コースの昼食については、受領後に改めて連絡いたします。両コース共に参加費納入確認後、受講案内をメールにてお知らせします。受講案内メールが届かない場合は連絡先までお問合せ下さい。

2017年4月10日現在 正会員数 3,133名

お知らせ

生涯教育点数が関係する行事に参加される方は、必ず会員証をお持ち下さい。
会員証をお忘れになった方は、自己申請して頂くことになります。
申請用紙は愛臨技HPの各種手続きにあります。



AiCCLS

愛知県臨床検査標準化協議会

通信
(第48回)

愛知県臨床検査標準化協議会 (Aichi Committee for Clinical Laboratory Standardization : AiCCLS) は、愛知県下の医療施設への臨床検査標準化の啓発活動を軸とした質の高い検査結果の共有維持を目的として、活動しています。

今回は、新しく発行された刊行物、「呼吸機能検査における手引書」についてご紹介いたします。

呼吸機能検査を必要とする被検者がどの医療機関でもどの検査者でも同レベルの結果が得られることにより、医療の質の向上につながるため、この手引書が皆さんに広く利用されるためガイドラインを作成しました、是非ご活用ください。今回は“肺拡散能力検査 DLcoスパイログラムと掛け声のタイミング”を抜粋しました。

詳しい内容、購入方法については、公益社団法人 愛知県臨床検査技師会HPの臨床検査標準化情報をご覧ください。

(AiCCLS : 愛知県臨床検査標準化協議会)

VI. 呼吸機能検査の実際

5. 肺拡散能力検査

(2) 検査の実施

【掛け声の例】(図 24)

①4～5回の安静換気を行なう。

「口だけで普段の呼吸をして下さい。」

②最大呼気位まで呼出させる。

「吐いて～途中で吸わないで、吐けなくなるまで吐いて下さい。」

③混合ガスを最大吸気位まで一気に吸入させる。

「吸って！一気に胸いっぱい吸って下さい。」

④10秒息こらえをさせる。

「吸えなくなったら、そのまま息を止めて～」

⑤一気に呼出させる。

「吐いて！一気に吐いて下さい。」

⑥「楽にして下さい。」

※ 死腔ガスの混入を避けるため、呼気の開始から0.75Lを洗い出し量 (washout volume) として捨て、次の1Lを測定用の容量 (sampling volume) として採取する。

※ ATS基準でVCが2L未満の場合は、死腔洗い出し量 (washout volume) を0.5L、測定用の容量 (sampling volume) を0.5Lまで減量してもよいとしているが、機種により異なるため、メーカーに確認する。測定用の容量を減量した場合はガス測定終了時にサンプルバッグ内にガスが残っていることを確認する。また、減量したことを必ず記載し報告する。

2) 妥当性と採択の基準

妥当性と採択の基準を表6に示す。

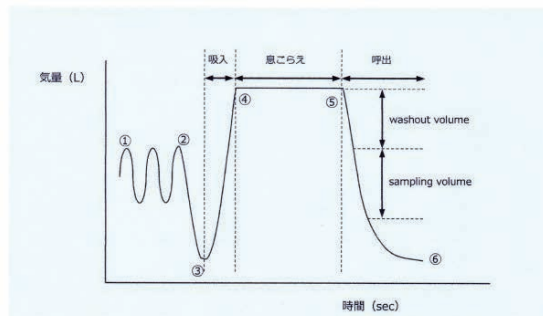


図 24 DLco スパイログラムと掛け声のタイミング

表 6 DLco 測定の妥当性と採択基準

	基準
妥当性	①試験ガスの吸気は4秒以内に終了し、他の測定方法で得られた肺活量の90%以上を吸入していること ②安定した息こらえで、回路からリーク(口漏れなど)がなく、息こらえ時間が9～11秒の間であること ③4秒以内に呼出が終了し、死腔洗い出し量 (washout volume)、測定用の容量 (sampling volume) が適切であること
採択	上記3点を満たしていること

日本呼吸器学会呼吸機能検査ガイドライン2004引用